

2012年3月期 決算報告 個人投資家の皆さまへ

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

2012年3月期 決算のポイント

- 東日本大震災の影響や欧州債務危機に端を発する金融市場の悪化など、経営を取り巻く環境が厳しい中、震災で被災されたお客さまへの対応に最優先で取り組みつつ、第一生命グループとして国内外の成長分野での事業展開を進めました。また、コスト削減等、事業の効率化やリスク性資産の削減も順調に行った結果、修正業績予想を上回る決算となりました。
- 生命保険会社の企業価値を示す2012年3月末のグループエンベディッドバリューは、2兆6,615億円となり、前期末の2兆4,403億円から2,212億円の増加となりました。新契約の獲得が寄与したこと、法人税減税のプラス効果、また、第一生命単体(以下、「当社」)における事業費率等の改善が貢献しました。
- 株主配当については期初予想通り、1株あたり1,600円を予定しております。

(1) 経常収益

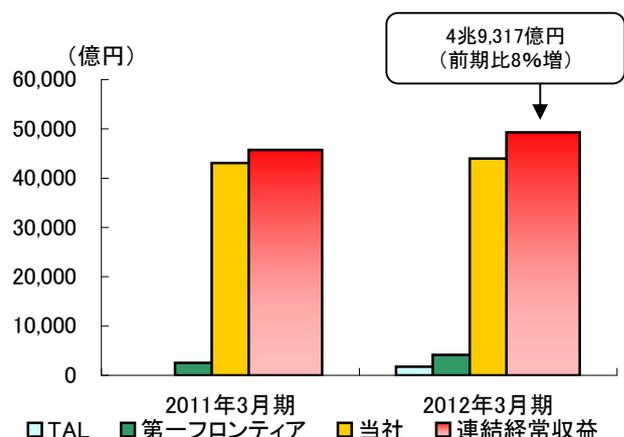
連結経常収益は4兆9,317億円(前期比8%増)となりました。

銀行窓販チャネルにおける定額年金の販売が好調であったことや昨年5月に完全子会社化した豪州TAL社(注)の個人向け保障性商品の販売が好調であったこと等から増収となりました。

(注) TAL社とは？

2011年5月、当社の関連会社だったタワー社(TOWER Australia Limited)を完全子会社化し、4月1日より連結業績に取り込んでいます。タワー社は2011年6月に社名変更を行い、TAL社(TAL Limited)となりました。

経常収益実績(累計)



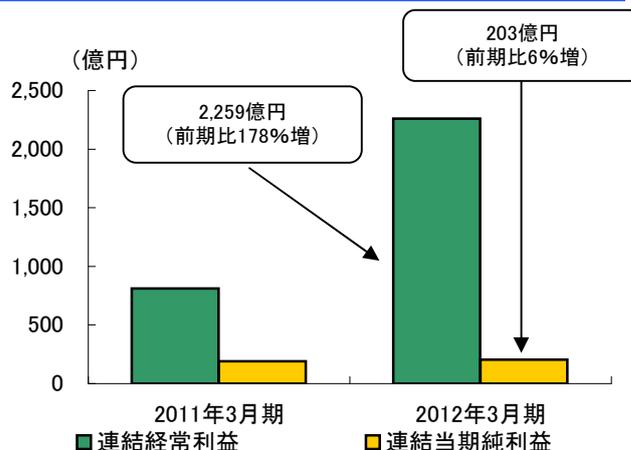
(2) 経常利益・当期純利益

連結経常利益は2,259億円(前期比178%増)、連結当期純利益は203億円(同6%増)となりました。

連結経常利益は、金融環境の落ち着きに伴う有価証券評価損の減少や法人税制改正に伴い準備金の一部を取り崩したことから大幅な増益となりました。

一方、連結当期純利益は税制改正による法人税等調整額の増加もあり同6%の増益となりました。

経常利益・当期純利益実績(累計)



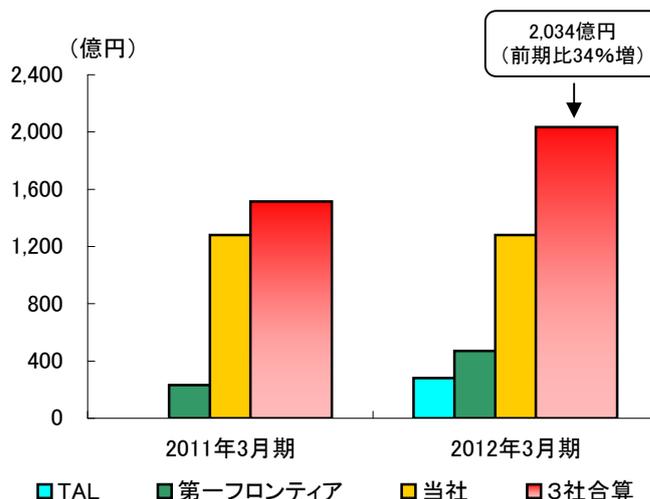
(3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)、TALの3社合算で、2,034億円となりました。

当社の個人保険分野では、医療保険「メディカルエール」、一時払終身保険「グランロード」を中心に好調な販売が続きました。

また、第一フロンティアの定額年金の販売が好調であったことや、昨年5月に完全子会社化したTALの貢献により、新契約年換算保険料は前期比34%増となりました。

新契約年換算保険料

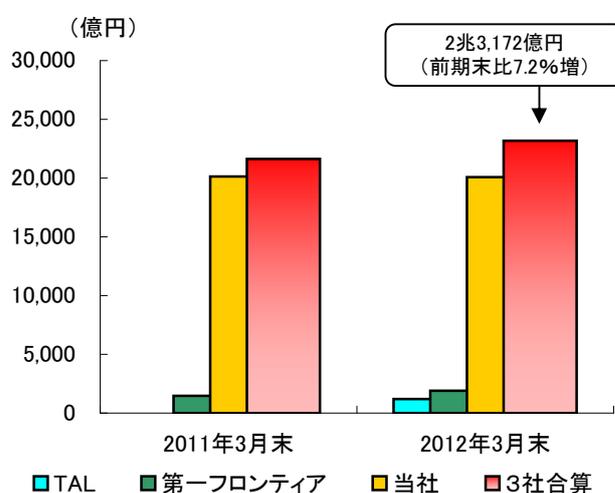


(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア、TALの3社合算で、2兆3,172億円となりました。

このうち、医療保険を中心とする第三分野は5,150億円(前期末比1.7%増)、第一フロンティアは1,913億円(同29.3%増)、TALが1,190億円と国内外の成長分野が年換算保険料の伸びを後押ししました。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2012年3月末)は、1兆1,799億円となりました。

前期末と比較して、国内外の金利が低下したことにより、国内債券と外国証券(主に外国債券)の含み益が増加したため、前期末比で約5,400億円増加しました。

含み損益(当社、一般勘定)

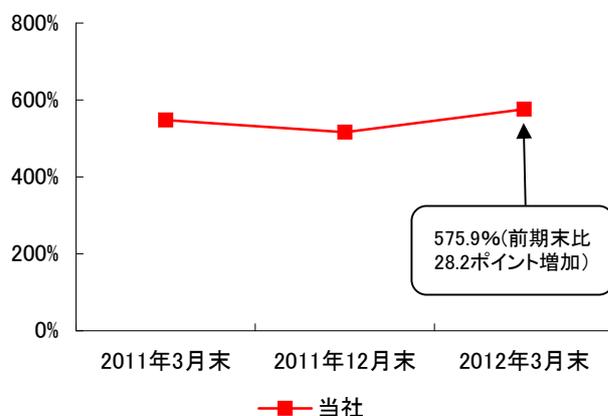
	2011年 3月末	2012年 3月末	増減
有価証券	6,141	12,156	+6,015
うち国内債券	3,838	7,906	+4,067
うち国内株式	3,056	2,978	△78
うち外国証券	△ 804	1,144	+1,949
不動産	205	△ 365	△570
その他共計	6,392	11,799	+5,407

(億円)

(6) ソルベンシー・マージン比率^(注)

基準がより厳格となったソルベンシー・マージン比率(2012年3月末)は、有価証券含み益の増加や、株式削減によりリスク量が減少した結果、前期末比28.2ポイント上昇し、575.9%となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の前測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の前測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

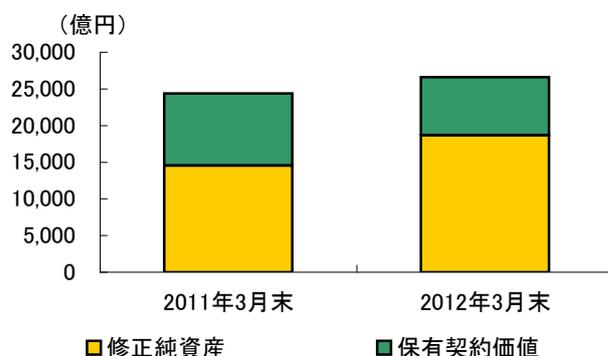
同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) エンベディッド・バリュー(EV)^(注)

第一生命グループのEV(2012年3月末)は、前期末に比べ2,212億円増加し、2兆6,615億円となりました。

前期末比でEVが増加した主な要因は、新契約の獲得が寄与したこと、法人税減税のプラス効果、当社における事業費率の改善が進んだことです。

エンベディッド・バリュー(EV)



(注)エンベディッド・バリュー(EV)とは？

当社グループは市場における当社の企業価値を測る指標として、EVを開示し、その向上に努めています。

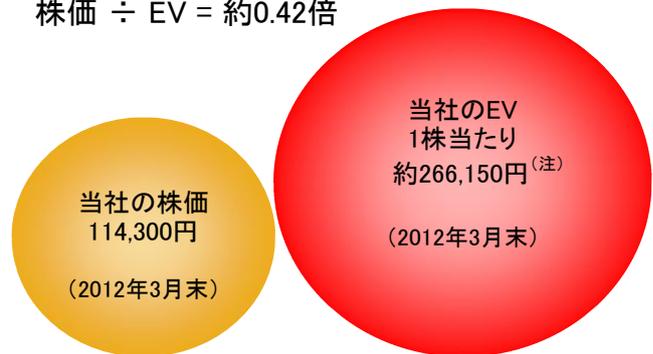
現行の生命保険会社の法定会計では、新契約獲得から会計上の利益の実現までに時間がかかります。通常は契約の初期に販売手数料等の費用の大部分が発生する一方で、生命保険の契約は20年、30年と非常に長期にわたるため、時間の経過にともなって収益が発生し、長期間で収益を上げる仕組みとなっています。EVでは、この将来にわたる利益貢献を現時点に割り戻して認識するため、法定会計による財務情報を補強することができますと考えられています。

(8) 株価EV倍率

株価をEVで割って求めた株価EV倍率(2012年3月末)は、約0.42倍となりました。

株価EV倍率(2012年3月末)

株価 ÷ EV = 約0.42倍



(注) 当社の1株当たりEVは、当社グループのEV2兆6,615億円(2012年3月末)を、当社の発行済株式数1,000万株で除して算出したものです。

(9) 業績予想

2013年3月期連結業績は、経常収益が前期比約3,357億円減となる4兆5,960億円、経常利益は同879億円減の1,380億円、当期純利益は同46億円増の250億円を見込んでいます。

経常収益が前期比マイナスとなるのは、一時払終身保険の販売減少を想定しているためですが、第三分野や銀行窓販、海外事業等、成長分野は引き続き、プラス成長を見込んでいます。

当期純利益は資産運用収支の改善等により増益を見込んでいます。

連結業績予想

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (予想)	(億円) 増減
経常収益	49,317	45,960	△ 3,357
経常利益	2,259	1,380	△ 879
当期純利益	203	250	+46
			(円)
1株当たり 当期純利益※	2,061	2,528	-
1株当たり 期末配当金	1,600	1,600	-

※1株当たり当期純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。